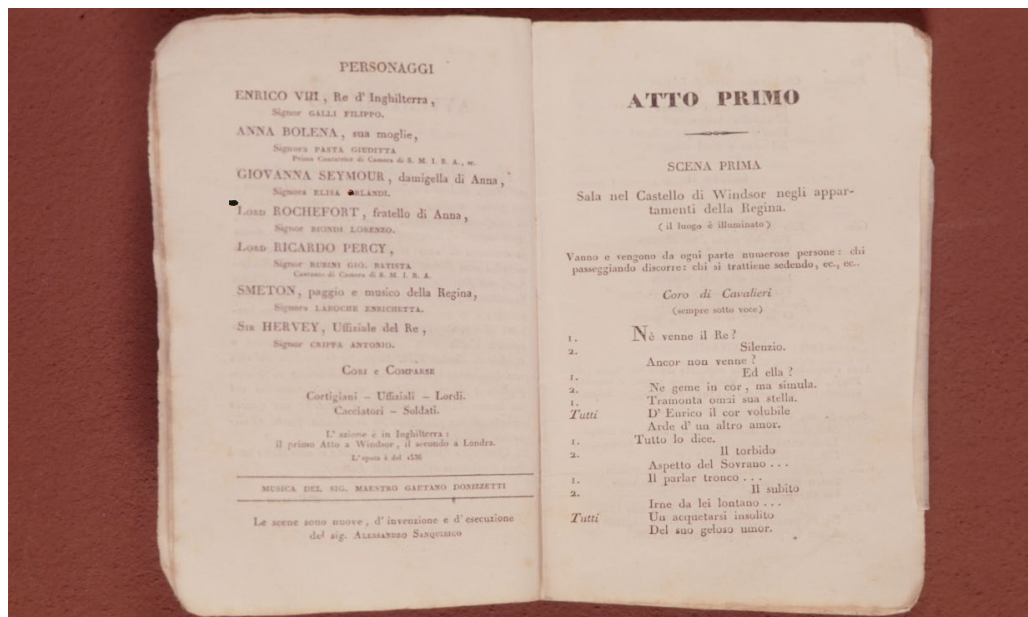
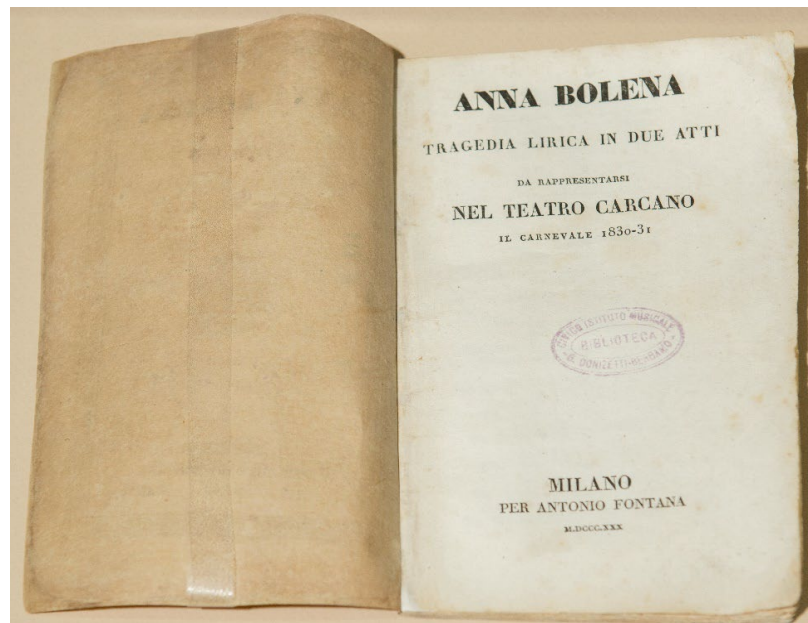


# 《アンナ・ボレーナ Anna Bolena》 作品解説

## トラジェディア・リリカ(叙情悲劇) 二幕

作曲年	1830年11月11日
台本	フェリーチェ・ロマーニ Felice Romani リブレット完成 ~12月
初演	1830年12月26日、ミラノ、カルカノ劇場 18回公演
自筆譜	ミラノ、リコルディ出版社文書館所蔵
原作	アレッサンドロ・ペーポリ Alessandro Pepoli 『アンナ・ボレーナ』(ミラノ、1788年) イッポリト・ピンデモンテ Ippolito Pindemonte 『エンリーコ八世、もしくはアンナ・ボレーナ』(トリノ、1816年) (マリー=ジョゼフ・ド・シェニエ Marie-Joseph Chénier 『アンリ八世』(パリ、1791年)の翻訳による)



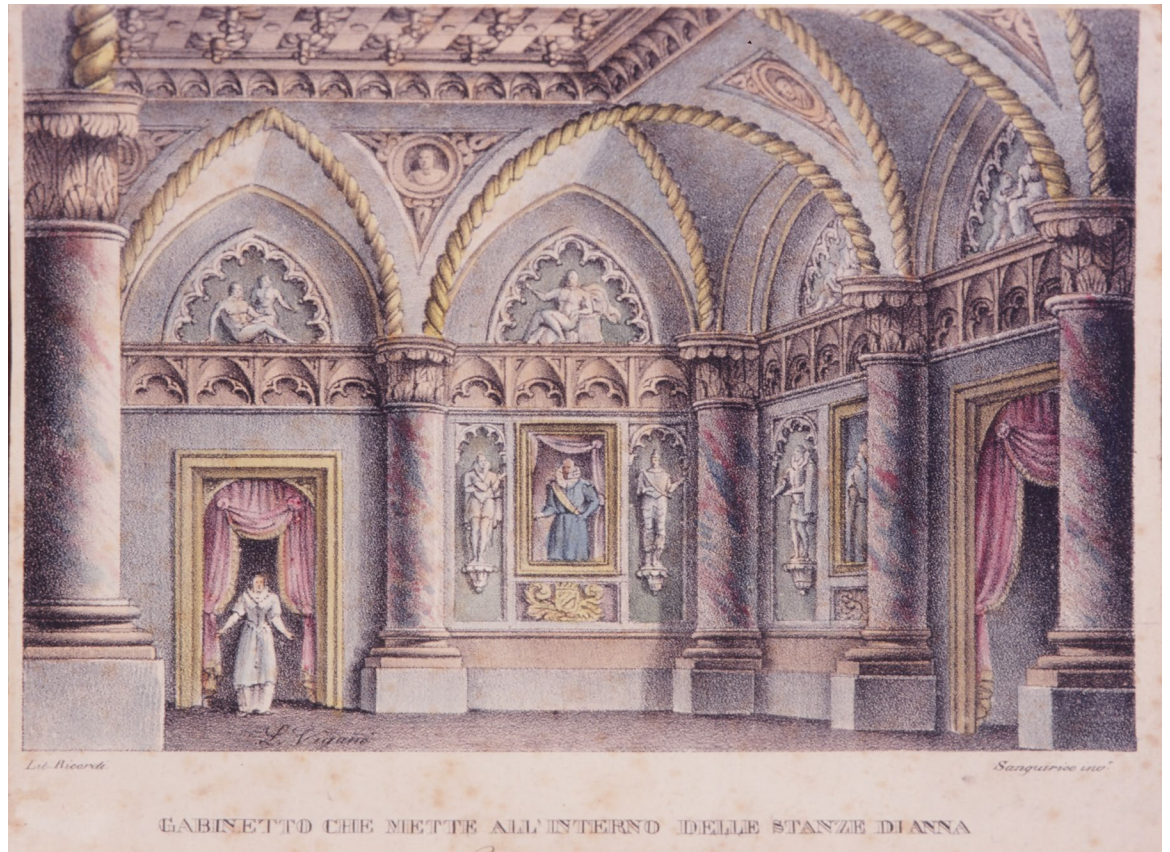
初演のリブレット

時代と場所	1536年のイギリス 第一幕 ウィンザー、第二幕 ロンドン	
登場人物・声種 (初演の歌い手)	アンナ・ボレーナ Anna Bolena (イギリスの女王 アン・ブーリン)	Soprano (ジュディッタ・パスタ Giuditta Pasta)
	リッカルド・ペルシー卿 Lord Riccardo Percy (ヘンリー・パーシー卿)	Tenore (ジョヴァンニ・バッティスタ・ルビーニ Giovanni Battista Rubini)
	エンリーコ八世 Enrico VIII (イギリス国王 ヘンリー八世)	Basso (フィリッポ・ガツリ Filippo Galli)
	ジョヴァンナ・セイモール Giovanna seymour (アンナの女官 ジェーン・シーモア)	Mezzosoprano (エリーザ・オルランディ Elisa Orlandi)
	スメトン Smeton (小姓・音楽家 マーク・スミートン)	Contralto (エンリケッタ・ラロシュ Enrichetta Laroche)
	ロシュフォール卿 Rochefort (アンナの兄弟 ロッチフォード子爵)	Basso (ロレンツォ・ビオンディ Lorenzo Biondi)
	エルヴェイ Hervey (国王の武官)	Tenore (アントーニオ・クリツパ Antonio Crippa)



アンナの衣裳のジュディッタ・パスタ Giuditta Pasta





アレックスサンドロ・サンクイリコ Alessandro Sanguisetti による舞台のデッサン

## 【構成】

序曲 Preludio

## 第一幕

No.1 導入曲 Introduzione (合唱、ジョヴァンナ、アンナ、スメトン)

Né venne il re? 王は来られないのか?

No.2 シェーナと二重唱 Scena e Duetto (ジョヴァンナ、エンリーコ)

Oh! qual parlar fu il suo! ああ! あのお方は何ということを知ったのか!

No.3 レチタティーヴォとカヴァティーナ Recitativo e Cavatina (ロシュフォール、ペルシー、合唱)

Chi veggo?...In Inghilterra tu, mio Percy? 一体どうしたのか?...ペルシー、君がイギリスに?

No.4 シェーナと五重唱 (アンナ、エンリーコ、ペルシー、ロシュフォール、エルヴェイ、合唱)

Desta sì tosto, e tolti oggi al riposo? 今日こんなに早くに起こされて、休息を妨げたのでは?

No.5 シェーナとフィナーレ I Scena e Finale I (スメトン、アンナ、ロシュフォール、ペルシー、エンリーコ、合唱、エルヴェイ)

È sgombro il loco... この場所には誰もいない...

## 第二幕

No.6 導入曲 Introduzione (合唱、アンナ、エルヴェイ)

Oh! dove mai ne andarono ああ! 一体どこに行ってしまったのか

No.7 シェーナと二重唱 (アンナ、ジョヴァンナ)

Dio, che mi vedi in core 私の心の内をご覧になる

No.8 合唱、シェーナと三重唱 (Coro), Scena e Terzetto (合唱、エルヴェイ、エンリーコ、アンナ、ペルシー)

Ebben? Dinanzi ai Giudici quale dei rei fu tratto? ところで、どの罪人が裁判官らの前に引き出されたのか?

- No.9 シェーナとアリア Scena e Aria (エンリーコ、ジョヴァンナ、エルヴェイ、合唱)  
Sposa a Percy pria che ad Enrico ell' era! 彼女がエンリーコに嫁ぐ前にペルシーの妻だった!
- No.10 シェーナとアリア Scena e Aria ペルシー (ペルシー、ロシュフォール、エルヴェイ)  
Tu pur dannato a morte お前も死刑に処せられるのだ
- No.11 最終景 Ultima scena (合唱、アンナ、エルヴェイ、ペルシー、ロシュフォール、スメトン)  
Chi può vederla a ciglio asciutto 誰が涙で睫を濡らさずに彼女を見ることが出来るだろうか

#### 【あらすじ】

王エンリーコはいまや妻アンナへの愛が冷め、女官のジョヴァンナを寵愛している。騎士たちが小声で、王から冷たく扱われたアンナが悲しんで、泣きながら過ごしていると話している。王はジョヴァンナを新たな王妃に迎えようと、アンナを陥れる陰謀を企てる。王はアンナのかつての恋人ペルシーを追放先から呼び戻し、自らは狩りに出掛けて、わざと彼女に近づかせようと仕向ける。ペルシーはアンナに会いに行き復縁を迫るが拒絶され、剣を抜いて自らを刺そうとする。そこに隠れていたスメトンが飛び出しもみ合いになり、アンナは気を失う。騒ぎになったところに王が駆け付け、王妃の不貞を訴える。体を投げ出して王妃の無実を訴えたその時、スメトンは秘かに持っていたアンナの肖像画を落としてしまい、王はアンナが不貞を働いたとして、その場に関わった全員を捕えさせる。

貴族会議がアンナの女官たちを呼び出す。アンナは彼女たちに無実の証人になってくださいと頼む。ジョヴァンナはアンナに、王家の名前は捨てることにはなっても、自分に罪があると言えば命は救えると懇願する。アンナは、王の愛人が信じていたジョヴァンナ自身であることに気づき、罪の呵責に苦しむジョヴァンナに、お前を誘惑した者が悪いのだと慈悲をかけ彼女を許す。一方スメトンは、告白すればアンナの命を助けるという王の誘惑の言葉を信じて自白してしまう。さらに、アンナの命を救おうと懸命に無実を訴えるペルシーに、王は耳を傾けず、残酷にも二人の死を望み、ついにはペルシーがアンナとは夫婦であったと言ってしまう。エンリーコはジョヴァンナに、アンナと彼女の娘も処罰し、ジョヴァンナを王妃とすることを告げる。牢の中でアンナは錯乱し、かつてペルシーと過ごした故郷の城を思い出しながら、彼との愛の日をせめて一日だけでも返してと呟く。婚礼の大砲の音で正気に戻ったアンナは、邪な夫婦に対して復讐の呪いではなく、寛大な慈悲の心が持てるようにと神に訴え倒れる。